

学びのサイクル通信

「学びのふりかえり」に取り組んでいるけれど、授業への生かし方がいまひとつわからないのです・・・。



先生方の授業づくりを応援します！

「学びのふりかえり」を使ってできる、ちょっとした授業改善のヒントをお届けします。児童に、考える力・記述の力を付けるための授業づくりと一緒に考えていきましょう。

「学びのふりかえり」の効果的な使い方

P

授業の計画

単元の学習に入る前に評価問題を確認します。自分のクラスの児童なら、どのように解答するだろう…と想像してください。そして、解説資料を読み、求められている力を付けさせるための単元計画を立てます。

Pを大切にしてください。授業改善の始まりです。



D

授業の実施

考える力、記述の力を高める手立てを考えます。

C

評価問題の実施

採点・入力をして、県の状況と比較し、実態を把握します。

A

授業の改善へ

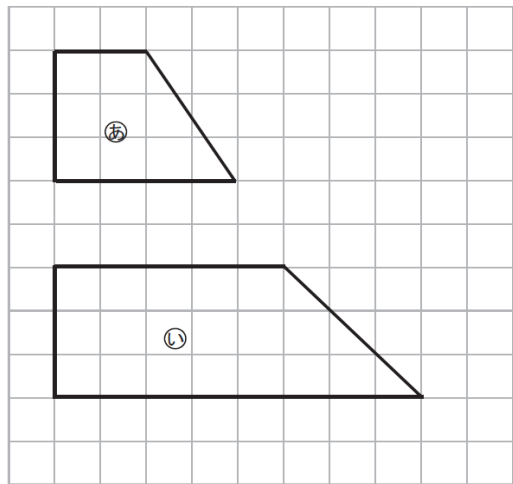
授業改善の視点を持ち、今後の授業に生かします。

教科書の〇〇ページの課題で、自分の考えを書いたり、友達の考えを共有したりする時間をしっかりとります。板書に大切な考えを表すようにしましょう。

今回は、第6学年・算数「拡大図と縮図」(教科書97, 98ページ)の課題を扱った授業計画例を紹介します。先生方の1時間の授業づくりの参考にしてください。

< 単元末評価問題 >

まさるさんとたけしさんは、㊦と㊧の台形を見て次のように話しています。



㊧の台形は、㊦の台形を大きくしているから拡大図といえるのかな。



㊧の台形は、㊦の台形を大きくしているけれど、拡大図とはいえないと思います。なぜなら・・・



たけしさんが言っているように、㊧の台形は、㊦の台形の拡大図ではありません。

◎ 拡大図とはどのような図形ですか。角と辺に注目し、言葉や記号を使って拡大図について説明しましょう。

(正答例)

対応する角の大きさがそれぞれ等しく、対応する辺の長さの比が等しくなるようにもとの図を大きくした図を拡大図という。

◎正答例は、次の①～③の項目で構成されています。
◎採点に当たっては、児童の解答を項目ごとに評価し、書いている項目をチェックします。(ピーチウエアのExcelソフトを使えば、点数は自動計算されます。)
◎昨年度の県内における項目ごとの解答率は、下のとおりです。

- ① 対応する角の大きさがそれぞれ等しいことを示している。(2点) 59.8%
 - ② 対応する辺の長さの比がすべて等しいことを示している。(2点) 48.6%
 - ③ もとの図を大きくすることを示している。(2点) 29.7%
- (※①～③全ての項目が書けていた児童 21%)

この問題のように、拡大図ではない図を示し、角の大きさや辺の長さに着目しながら拡大図と言えないわけについて、考えさせる活動が大切です。拡大図の意味や性質の理解を深めることにつながります。

